

# 山陰の弥生時代

改訂版

～山陰弥生回廊を歩く～



青谷上寺地遺跡出土木製容器



加茂岩倉出土銅鐸



妻木晩田遺跡



西谷3号墓模型



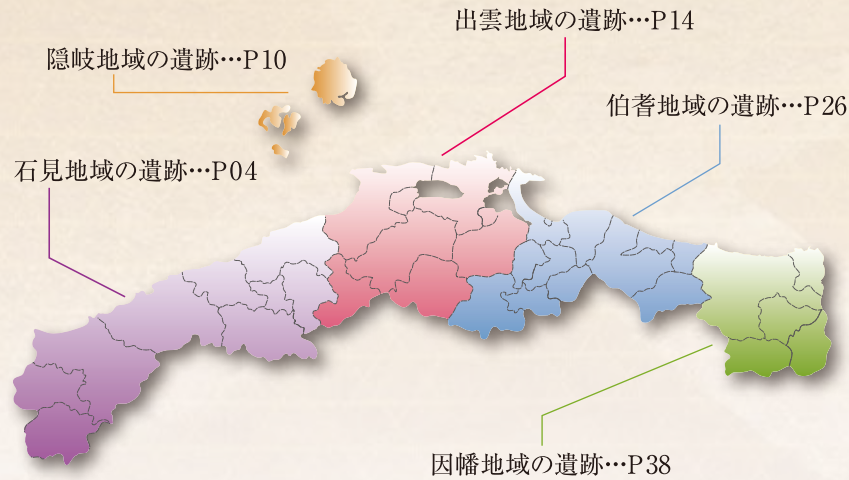
青谷上寺地遺跡出土土花弁高杯



田和山遺跡



# もくじ



## 年表

時代区分		西 暦	主な出来事
弥生時代	前 期	前8～9世紀頃 (前4世紀頃)	本格的な水稲耕作が始まる。
	中 期	前4世紀～ (前2世紀) 前1世紀頃	倭人は百余国に分かれ、一部が漢の楽浪郡に朝貢する。(['漢書地理志'])
	後 期	後1世紀～ 57 147～189 239 248	倭奴国王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を賜る。(['後漢書東夷伝']) 倭国大乱(['三国志』魏志倭人伝) 倭の女王卑弥呼が魏に使いを送る。 魏の明帝は卑弥呼に「親魏倭王」金印紫綬、銅鏡100枚を与える。 卑弥呼没(['三国志』魏志倭人伝)
古墳時代	前 期	3世紀中頃 266	前方後円墳の築造が本格的に始まる。 倭の女王が晋に使いを送る。(['晋書'])

※弥生時代前期から中期の年代観は、国立歴史民俗博物館が提唱する、放射性炭素年代測定法による年代にもとづく暦年較正年代です。()内の年代は従来の年代観です。

# はじめに

山陰両県には、荒神谷遺跡や妻木晩田遺跡のようによく知られた遺跡以外にも、たくさんの弥生時代の遺跡があります。現在、鳥取県で約450(因幡約50、伯耆約400)、島根県で約610(出雲440、石見155、隠岐15)の遺跡が確認されています。本書は、史跡として保存され整備された遺跡や、現地に説明板などがあり見学できる遺跡を中心に、山陰の主な遺跡と出土品を紹介しています。本書を片手にぜひ遺跡現地を訪ねていただき、立地と景観を肌で感じ、弥生時代のひとびとが見た世界に思いをはせていただければ幸いです。

# 山陰の弥生時代

## 1 弥生文化の黎明

弥生時代は、灌漑水田による稲作の導入をもって始まったと考えられます。山陰の弥生文化は、九州北部や山口県西部からやって来た水稲耕作、土器の製作方法、金属器の使用といった外来の要素と、縄文時代以来の伝統的な要素とが融合して成り立っています。伝統的要素には、石器や骨角器の素材や技術、すまい(竪穴建物)の構造、漆の使用などがあげられます。弥生時代前期、外来の要素を受け入れた山陰の遺跡は、古浦遺跡や原山遺跡、矢野遺跡、長瀬高浜遺跡など、水上交通に便利な海岸や沿岸部に多く営まれています。これらの遺跡では弥生土器や縄文時代とは異なる大陸系の磨製石器を使っていました。

## 2 弥生文化の拡大

弥生時代前期末から中期にかけて、丘陵の上にも集落が営まれるようになり、集落を取り囲む環濠をめぐらせる遺跡もあらわれます。またこの時期には、青銅器を用いた祭祀が盛んにおこなわれるようになります。中期末～後期には荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡で大量の青銅器が埋納され、石を貼りつけた貼石墓から発展した四隅突出型墳丘墓が出現するなど、大きな変動がありました。

## 3 王墓誕生

弥生時代後期には遺跡の数が増え、妻木晩田遺跡や越敷山遺跡のように丘陵全体に広がる大規模な遺跡もみられるようになります。四隅突出型墳丘墓は規模が大きくなり、西谷墳墓群のように「王墓」とみられるものがあらわれます。この時期には朝鮮半島や九州北部との交流によって、鉄器やガラス製品などがもたらされるほか、吉備や北陸など列島内外との広い地域間交流があったことがうかがえます。



## さまざまな遺跡と出土品

～ 弥生時代のみかた～

### 住まい

弥生時代の一般的な住居・工房である竪穴建物は床面部分を一段掘り下げて建てられています。一方、掘立柱で床を高くした倉庫のような建物もありました。



発掘した竪穴建物跡(妻木晩田遺跡)



木材を組み上げたところ(妻木晩田遺跡)



屋根を葺いて完成(妻木晩田遺跡)



高床式の掘立柱建物(妻木晩田遺跡)



よみがえったムラのすがた(妻木晩田遺跡)

### 葬る

地面に直接墓穴を掘ってそのまま埋葬する土坑墓が一般的にみられるほか、墓穴の上に石を敷き詰めた配石墓などもあります。古墳と同じように土を盛り上げたお墓は、古墳時代の古墳と区別して墳丘墓と呼んでいます。墳丘墓は平面が方形で貼石をしたものから、四隅が突出した山陰地域に多く分布する四隅突出型墳丘墓へと発展し、地位の高い人物があらわれたことを物語ります。



残存していた人骨(古浦遺跡)



配石墓(原山遺跡)



方形貼石墓(梅田菅峯遺跡)



密集する小型の四隅突出型墳丘墓(妻木晩田遺跡)



大型の四隅突出型墳丘墓(西谷3号墓模型)

## いのり・うらなう

祭祀に使われたと考えられる様々な出土品があります。ト骨は動物の骨を熱してヒビの入り方で占いをしたものです。土笛は弥生前期、日本海沿岸地域に分布し、まつりの場で吹かれたと考えられます。銅鐸や銅剣などの青銅器も、稲作などの農耕にかかわる祭祀に使用されたというのが一般的な説となっています。



占いに使われたト骨(動物の骨)(青谷上寺地遺跡)



まつりに使われた土笛(西川津遺跡)



分銅形土製品(阿弥大寺遺跡)



神殿(?)を目的地して漕ぐ船の絵(稲吉角田遺跡の土器絵画)



埋納された青銅器(荒神谷遺跡)

## なりわい・道具

稲作を中心に、狩猟や漁労、採集活動により食糧を得ていました。素材の特徴を生かした様々な道具を巧みに作り出しています。鉄素材はまだ国内で作ることができず、大陸や朝鮮半島から入手したものを加工して鉄の道具を作っていました。玉や漆製品など、特殊な生産活動もみられます。



水田のあぜの跡(大敷遺跡)



さまざまな石器(西川津遺跡群)



さまざまな木器(姫原西遺跡)



シカの角を用いた鈎針(西川津遺跡群)



鉄器(大陸製の鑄造鉄斧)(青谷上寺地遺跡)



管玉の製作関連資料(西川津遺跡群)



漆を集めた土器(西川津遺跡群)



弥生前期の土器(西川津遺跡群)



# 石見地域の遺跡

石見地域は全体に山地が広がっており、標高100m前後の山が海岸付近にまでせまっています。河口に形成された平野や、山間部の盆地の規模は小さく、山陰地方の東側と異なる景観を作っていました。その様子はこれまでに確認された遺跡にも現れています。

前期の遺跡は調査例が少なく、集落の様子がわかる遺跡は現在確認されていません。中期以降は遺跡の数が増え、集落跡や墳墓も確認されています。



## 県指定

じゅうなんばらいちごうぼ  
順庵原1号墓 [元祖! 四隅突出型墳丘墓]

邑智郡邑南町

昭和43・44年、初めて発掘調査で確認された「第1号」の四隅突出型墳丘墓です。当時は山陰地域にそのような墳丘墓があることが全く知られていなかったため、四隅が飛び出した不思議な形状に研究者は大いに悩まされたようです。当初は「山間部における発生期の特殊な古墳」と考えられていましたが、その後、松江市や安来市でも類似の墳丘墓が発見され、こうした弥生時代の墳墓が山陰地域の広い範囲に分布することが明らかになっていきました。順庵原1号墓は学史の第1歩を刻む重要な遺跡です。

墳丘は長辺10.75m、短辺8.25mあり、墳丘上には3つの埋葬施設があります。うち2つは石を組み合わせた石棺が収められていました。内部から60個以上のガラス製の玉が出土しています。墳丘の裾周りには、石を円形に並べた不思議なストーンサークルが3基見つかりました。

この墳丘墓は弥生時代後期前葉に造られたとみられます。現在の国道をはさんで南東方向に40mほど離れた順庵原B遺跡では同時期の大型竪穴建物跡が見つかり、お墓を作った集団が近くに住んでいたことがわかりました。

順庵原1号墓は昭和45年に県指定史跡となり、現地に保存されています。ストーンサークルや墳丘裾の列石は保護のため埋め戻されていますが、墳丘の形状や貼り石の一部を見学することが可能です。また出土品は邑南町郷土館に展示されていますので、現地と併せて見学されることをお勧めします。

【所在地】邑南町上亀谷 順庵原  
【お問合せ先】邑南町教育委員会 / TEL.0855-83-1127



墳丘墓の平面図



埋葬施設から出土したガラス玉



発掘調査時を復元した模型 (古代出雲歴史博物館常設展示)



木製容器を模した土器 (墳丘墓突出部から出土)

**邑南町郷土館**  
【所在地】邑南町下亀谷  
【開館時間】9:00~16:00  
【入館料】無料  
※臨時休館の場合がありますので、事前に電話にてご確認ください。



町  
指定かりやどうたくしゅつどち  
仮屋銅鐸出土地 [邑智郡の至宝]

邑智郡邑南町

大正3(1914)年、開墾中に2個の銅鐸が発見されました。出土地点は盆地に張り出した台地の上で、2個の銅鐸は横にして並んだ状態で見つかったとされています。平成元年にあらためて出土地が発掘調査され、銅鐸が埋納されていたとみられる径約1m、深さ14cmのくぼみが確認されています。この埋納坑の上には出土地であることを示す標柱が立てられていますので、現地を訪れて見学することが可能です。

出土した2個の銅鐸は現在、東京国立博物館に収蔵されており、レプリカを邑南町郷土館および古代出雲歴史博物館で常設展示しています。

【所在地】邑南町中野字仮屋 【お問合せ】邑南町教育委員会 / TEL.0855-83-1127



仮屋出土の銅鐸



出土地の遠景

町  
指定おさじょういせき  
沖丈遺跡 [江の川中流域のお墓と集落跡]

邑智郡美郷町

江の川を見下ろす河岸段丘上に営まれた遺跡で、道路改良工事のために平成7年から発掘調査がおこなわれました。弥生時代前期の配石墓が24基、弥生時代後期後半の竪穴建物跡22棟が発見されたいへん話題になった遺跡です。配石墓は遺体を埋葬した穴の上に人頭大の川原石を敷き並べたものです。うち4基の墓内からは計112点もの管玉が出土しました。

弥生時代後期後半の竪穴建物跡は何度も建て替えられている様子が明らかになっており、ひとつのムラがどのように変遷するのかを示す貴重な事例となりました。多量の土器、石器が出土していますが、特に鉄製品77点が出土しており、遺跡のどこかで鉄器加工＝鍛冶をおこなっていた点が注目されます。

調査された遺跡は保護して埋め戻し、現在は道路の下となっています。道路脇には遺跡の説明板が設置されており、遺跡の立地を見学することができます。また美郷町役場となりの山村開発センターには配石墓のひとつ(10号墓)のレプリカと土器が展示されています。

【所在地】美郷町乙原

【お問合せ】美郷町教育委員会 / TEL.0855-75-1217



弥生時代前期の配石墓



弥生時代後期の竪穴建物跡

美郷町山村開発センター

【所在地】美郷町粕淵  
【開館時間】平日8:30～17:00  
【入館料】無料



墓の中から出土した管玉

市  
指定かみじょういせき  
上条遺跡 [本州最西端の銅鐸出土地]

浜田市上府町



上条遺跡出土銅鐸



出土地に立つ標柱(人物が埋納坑の位置)

下府川に面した谷の奥、標高70mほどの丘陵斜面に立地している、大正時代に壁土に使う土を掘っていて銅鐸2個が偶然発見されました。出土地の眺望は悪く、下府の平野からは山の裏側になって見えません。

2個の銅鐸は別々に見つかっており、20～30cmほど離れていたようです。平成10年に発掘調査され、銅鐸が埋納されていた可能性のある穴が確認されました。出土推定地は埋め戻されて現在、江津道路の脇に保存されています。現地には説明板が設置してあり見学が可能です。出土した2個の銅鐸は東京国立博物館に収蔵されており、レプリカは浜田郷土資料館および古代出雲歴史博物館に展示されています。

【所在地】浜田市上府町一ノ界引越

【お問合せ】浜田市教育委員会 / TEL.0855-25-9731

市  
指定ならはまいせき  
波来浜遺跡 [砂に覆われた遺跡]

江津市後地

海岸線から約800m離れた砂丘裾部に広がる遺跡で、昭和44年、砂採取の際に土器や人骨が出土して遺跡が発見されました。昭和46・47年に最初の発掘調査がおこなわれ、12基の墳墓が確認されています。そのうち2基は弥生時代中期中葉に造られたもので、山陰でも最古級の貼石墓として注目されます。特に、高さ0.9mの墳丘と扁平な貼石を持つ2号墓は、四隅突出型墳丘墓が誕生する前段階の墳墓の形態を示すものとして重要です。

完全な形の土器がまとまって出土しており、波来浜遺跡出土の弥生土器は一括して昭和45年、島根県の有形文化財に指定されました。出土品は古代出雲歴史博物館で展示しています。

調査後に現地は埋め戻されていますので見学できるものではありませんが、現地の立地環境を観察することは可能です。国道9号線から南側に入る脇道近くに標柱があり、ここから松林を登った砂丘一帯が波来浜遺跡です。

【所在地】江津市後地

【お問合せ】江津市教育委員会 / TEL.0855-52-2501



1号墓発掘の様子



出土品の一部



現在の波来浜遺跡



まえたてやまいせき

## 前立山遺跡

鹿足郡吉賀町

### 〔高津川上流域の大集落跡〕

中国縦貫道建設のために昭和53年から発掘調査され、丘陵上に営まれた弥生時代後期頃の竪穴住居跡が23棟見つかりました。前立山遺跡から約500m北東の河岸段丘上にある沖場遺跡でも、弥生時代後期後葉～古墳時代前期の竪穴建物跡が10棟以上見つっています。いずれも現地は見学できませんが、前立山遺跡出土品の一部は水源会館で展示しています。

【所在地】吉賀町注連川字前立山

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



前立山遺跡の集落跡

おおかげいせき

## 大蔭遺跡

鹿足郡津和野町

### 〔縄文時代から続く集落跡〕

津和野の町並みの南方、道の駅「津和野温泉なごみの里」がある川沿いの段丘一帯が大蔭遺跡です。平成10年からおこなわれた発掘調査で、縄文時代晩期後半～弥生時代初頭と、弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡が見つっています。発掘した部分はすでに県道の下になっていますが、それ以外の遺跡は土中に残っているとみられます。

【所在地】津和野町大蔭

【お問合せ】津和野町教育委員会  
TEL.0856-72-1854



大蔭遺跡の集落跡

なかしょうじいせき

## 中小路遺跡

益田市安富町

### 〔土器棺墓群と集落跡〕

中小路遺跡では、2つの土器の口を合わせて組み合わせたお墓、土器棺墓が多数まとまって発掘されました。また何度も建て替えられた竪穴建物跡も見つっています。高津川沿いの安富平野には他にも羽場遺跡、安富王子台遺跡といった弥生時代の集落跡が知られています。

【所在地】益田市安富町

【お問合せ】益田市教育委員会  
TEL.0856-31-0623



密集する土器棺墓

わにいしいせき

## 鱈石遺跡

浜田市治和町

### 〔弥生前期の土坑群〕

周布川の河口近く、標高2mほどの微高地にある遺跡です。昭和48年、発掘調査により遺跡が発見され、32基の土坑(穴)の中から多量の土器、石器、管玉などが出土しました。これらの土坑は墓や、食糧等を貯蔵するための穴と考えられています。石見地域の代表的な弥生時代前期の遺跡として重要な遺跡です(遺跡の時期は前期中葉～中期初頭が中心)。

出土品した石器には斧、鎌、剣など多種のものがあ、大陸系といわれる磨製石器が多く含まれている点特徴です。鱈石遺跡出土品は平成7年に市指定有形文化財となっており、一括して浜田郷土資料館で展示されています。遺跡現地は工場になっており見学はできません。

【所在地】浜田市治和町相田

【お問合せ】浜田市教育委員会／TEL.0855-25-9731



鱈石遺跡の出土品(市指定文化財)

### 浜田郷土資料館

【所在地】浜田市黒川町

【開館時間】9:00～17:00

【入館料】無料

【お問合せ】0855-23-6453

【アクセス】JR浜田駅より

徒歩で約10分

せんこうじわきいせき

## 専光寺脇遺跡

益田市久城町

### 〔国内最西端の方形貼石墓〕

益田川東岸の丘陵上に造られた、弥生時代中期後半頃の墳墓群です。益田道路建設に伴い、平成18年に発掘調査されました。1号墓は一辺が9.8×8.8mの四角い墳丘に丸い川原石を貼りつけた貼石墓で、日本海沿岸を中心に確認されている同様の貼石墓の中では最も西に位置しています。

【所在地】益田市久城町

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



手前が1号墓

はまよりじかたいせき

## 浜寄・地方遺跡

益田市高津町

### 〔石見地域で唯一の弥生水田跡〕

高津川西岸の低地にある遺跡です。益田道路建設に伴う発掘調査で、弥生時代中期ごろの水田跡が見つっています。水田のひと区画は長辺20m、短辺3～5mで、畦により整然と区画された状態で20枚ほどの水田区画が確認されました。

【所在地】益田市高津町

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



上空からみた水田跡

ふるはちまんふきんいせき

## 古八幡付近遺跡

江津市敬川町

### 〔日本海を見下ろす集落跡〕

敬川東岸、日本海を見下ろす標高約60mの丘陵上に営まれた弥生時代中期中葉頃の集落跡です。江津道路建設にともなう平成10年の発掘調査で竪穴住居跡3棟、掘立柱建物1棟と、これらを囲む溝＝環濠が確認されました。丘陵上に遺跡が広がっていると推定されます。現在は道路が建設されており、見学はできません。

【所在地】江津市敬川町

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



集落を囲む溝

あんでらいせき

## 庵寺遺跡

大田市仁摩町

### 〔県内最多35点の田下駄出土〕

仁摩温泉津道路の建設に伴って平成17～19年に発掘調査されました。流路の跡から35点



もの弥生時代の田下駄が出土しています。また、100mほど離れた五丁遺跡でも小河川の流路跡を確認しており、縄文時代晩期～弥生時代前期の土器が多数出土しています。

←出土した田下駄

【所在地】大田市仁摩町大田

【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



# 隠岐地域の遺跡

昭和30年代までは、隠岐諸島に弥生時代の遺跡が存在しないと考える研究者もいたそうです。昭和41年に河川改修の工事中に月無遺跡が発見され、はじめて弥生土器と稲作に伴う木製農耕具や石包丁が出土しました。これ以降、弥生時代の遺跡数は着実に増加しており、少ないながらもバラエティに富んだ遺跡が知られています。隠岐で産出する黒曜石は弥生時代になっても本土に運ばれていますし、逆に本土から運ばれてきたと考えられる土器などもあります。当時の人々は活発に海を渡って交流していたとみられます。

## ● 現地見学可能な遺跡



## 県指定

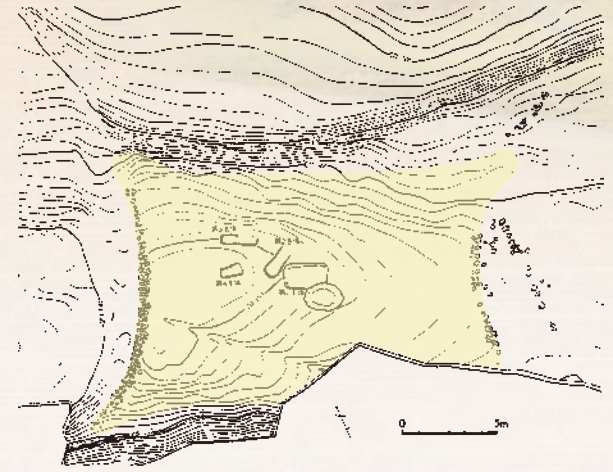
おおしろいせき

## 大城遺跡 [隠岐の島で初めて見つかった四隅突出墓]

隠岐郡隠岐の島町

運動公園の建設にともなって平成10年に発掘調査がおこなわれ、四隅突出型墳丘墓が1基、見つかりました。それまで隠岐では弥生時代の墳墓がまったく見つかっていなかったの、「やっぱり隠岐にも四隅突出型墳丘墓があった!」と話題になりました。

大城遺跡は西郷湾を見下ろす標高30mほどの丘陵上にあり、尾根の自然地形を利用して墳丘墓が作りだされています。突出部を除く長辺の長さ約18m、突出部を含めると20m以上の規模があり、墳丘の裾には川原石が規則正しく並べて貼り石とされていました。貼り石はゆるやかにカーブしており、四隅が突出することがはっきりわかります。



墳丘墓の平面図

墳丘には4つの埋葬施設があります。墳丘の中心に埋葬された最も大きな埋葬施設には、木棺が埋められていたことがわかりました。その内部からは土器と、碧玉製の管玉10点が発見されています。

昭和51年、付近で造成がおこなわれた際に、スタンプで模様をつけた土器が見つかりました。肩部に3つの小口がつき、スタンプで渦巻と水鳥の模様を交互に押し出した珍しい土器で、埋葬の儀礼のために特別に作られたものと考えられます。位置関係からみて、のちに発見された四隅突出型墳丘墓にともなうものであった可能性が高いとみられます。

大城遺跡の四隅突出型墳丘墓は、運動公園の一面に墳丘を復元して整備されており、自由に見学が可能です。また出土品は隠岐郷土館に展示されています。

【所在地】隠岐の島町西町字吉田

【お問合せ】隠岐の島町教育委員会 / TEL.08512-2-2126



発掘時の墳丘墓



整備された状況



スタンプ文土器



埋葬施設から出土した管玉

## 隠岐郷土館

【所在地】隠岐の島町郡

【開館時間】9:00~17:00

【入館料】300円

【休館日】年末年始と12~3月の土日

【お問合せ】TEL.08512-5-2151



つきなしいせき  
**月無遺跡** [川底から多量の出土品]

隠岐郡隠岐の島町

八尾川河口から2kmほどさかのぼった有木郵便局の付近にある遺跡です。昭和41年、八尾川の河川改修工事が行われている現場で、多量の弥生土器、石器、木器が採集されました。これらの遺物は川床から2mほど下、標高-2mの土中に埋没していました。浅い内湾が埋まり陸地化していく過程で、周辺の集落から流れ込んできたものと考えられます。護岸などの可能性のある杭列なども同時に確認されており、近傍に水田や集落があったことが推定されます。

出土品は弥生時代前期末～後期の土器と、黒曜石製の鎌、石包丁、木製の鎌・鋤などがあります。これらは隠岐でも弥生時代から稲作がおこなわれていたことを示す資料として注目されます。

月無遺跡は隠岐で最初に見つかった確実な弥生時代の遺跡としても、学史に残る遺跡と言えるでしょう。遺跡は一帯に広がっているとみられますが、特に見学できることはありません。

【所在地】隠岐の島町有木字月無  
【お問合せ】隠岐の島町教育委員会  
TEL.08512-2-2126



現在の月無遺跡一帯の様子



多量に見つかったクワミ 出土した土器

町指定 たけだいせき  
**竹田遺跡** [隠岐の島で唯一の弥生青銅器]

隠岐郡海士町

平野北側の丘陵に遺跡が広がっています。昭和43年秋、桑畑を造成するため斜面をブルドーザーで削っていたところを海士中学校生徒が訪れ、土器片とともに銅剣を発見しました。昭和45年に付近を日本考古学協会が発掘調査した結果、この銅剣は多量の土器とともに溝に廃棄されたような状態で埋まっていたことが確認されました。遺跡はそのまま保存されていますが、現況は山林となっており特に見学できるものではありません。

銅剣は本来50cmほどの長さであったものが何らかの理由で破損し、弥生時代後期に溝へ廃棄されたとみられます。掘り出された際にもさらに破損しており、刃部のほとんどを損傷し基部の17cmだけが残っています。

この銅剣は隠岐の島で唯一の弥生青銅器であり、昭和47年に県指定有形文化財に指定され、現在は古代出雲歴史博物館で展示されています。

【所在地】海士町海士  
【お問合せ】海士町教育委員会  
TEL.08514-2-1222



竹田遺跡出土の銅剣



出土地の現状

ひがしふねいせき  
**東船遺跡** [港を目の前にした住居の跡]

隠岐郡隠岐の島町

隠岐空港の滑走路拡張にともなって平成10～11年に発掘調査され、弥生時代後期頃の竪穴建物跡が2棟見つっています。出土した土器の多くはオレンジ色をして厚ぼったいのが特徴ですが、住居跡から見つかった土器の中には白っぽく薄手なものが含まれていました。オレンジ色のものは地元産、白っぽいものは同じころの出雲地域の土器と良く似ていることから海を越えて本土から運ばれたと考えられます。

隠岐では住居跡の調査例も少なく貴重な事例ですが、現在は隠岐空港滑走路の下になり消滅しています。

【所在地】隠岐の島町今津字東船  
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



空からみた発掘中の東船遺跡



オレンジ色の土器(左)と白っぽい土器(右)

さいとうしいせき  
**西塔寺遺跡** [集落を囲む環濠か]

隠岐郡海士町

西塔寺遺跡は平野を見下ろす丘陵上に作られた、弥生時代中期～後期の集落跡と考えられる遺跡です。圃場整備事業にともなって、海士町教育委員会が発掘調査をおこないました。遺跡の周囲では断面形がV字形をした溝跡が見つかり、溝の内部から大量の土器が出土しています。この溝は、集落を囲む防衛的な溝＝環濠とみられ、西塔寺遺跡はいわゆる環濠集落であったと考えられます。このような環濠集落は「倭国大乱」と記された日本列島内の緊張状態を反映し、同時期の山陰各地に作られています。この遺跡の発見により隠岐地域にも同様のものがあったことがわかりました。一部のほとんどはすでに消滅していますが、集落跡は丘陵一帯に広がり地中に保存されている可能性があります。特に見学できる箇所はありません。

後鳥羽院資料館では、海士町内で出土した考古資料が展示されています。

【所在地】海士町海士  
【お問合せ】海士町教育委員会/TEL.08514-2-1222



遺跡の遠景



後鳥羽院資料館



発掘された環濠

【所在地】海士町海士 【入館料】大人300円  
【休館】12～3月休館 【お問合せ】TEL.08514-2-1470



# 出雲地域の遺跡

出雲地域には、大量の青銅器が埋納された荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡、巨大な王墓が集中して築造された西谷墳墓群や安来市の墳墓群、特殊な環壕遺跡である田和山遺跡といった、全国的にも有名な遺跡が多くあります。その背景には可耕地となる平野が広いこと、日本海や内水域を利用した水上交通のうえで地理的条件に恵まれていたこと、などが考えられます。

前期には内水域に面した朝酌川遺跡群、矢野遺跡などで拠点集落が発達し、原山遺跡や松江市鹿島町周辺といった日本海沿岸部に遺跡が認められます。中期以降、平野部を中心に土地の開発が進み、環濠や大溝で囲まれた大きな集落遺跡があらわれ、さらに四隅突出型墳丘墓などの首長墓が出現します。後期にかけて青銅器の多量埋納がおこなわれ、後期後半には王墓が超大型化し、鉄素材をはじめ多種のモノと人が広域に行き交っていたことがうかがえます。

● 現地見学可能な遺跡



安来周辺

古代出雲王陵の丘周辺の拡大図



斐川平野



朝酌川遺跡群



国指定

たわやまいせき

## 田和山遺跡 [山頂を囲む三重の環壕]

松江市乃白町

宍道湖を見下ろす丘陵頂部に位置する弥生時代前期～中期にかけての遺跡です。山頂部には住居跡など生活の痕跡はなく、神社建築(大社造り)のルートとの説もある5本柱、9本柱の施設だけが置かれていました。これを柵で囲み、さらに3重の深い環壕が山頂を守るかのように廻らされています。環壕の底からは3000個以上もの投石用川原石が見つかり、かなり防衛性が意識されていたようです。環壕の外側にはいくつかの住居跡がありました。このように集落ではない山頂を厳重に囲んだ環壕は全国でも外に例がなく、信仰上の特殊な遺跡ではないかと考えられています。

平成13年に国指定史跡となり、史跡公園として整備されました。山頂部では柵や柱の位置が復元され、宍道湖と島根半島を見渡す素晴らしい景色が満喫できます。見学所用時間約60分が目安です。途中、階段の上り下りがあります。

田和山サポートクラブの皆さんによるガイドをおこなっていますので、団体ガイドご希望の方は事前にお問い合わせください。

【所在地】松江市乃白町 【お問合せ】松江市教育委員会 / TEL.0852-55-5284



発掘成果をもとに復元された建物



整備後の田和山遺跡



山頂に表示された柱跡

国指定

にしだにぶんぼくん

## 西谷墳墓群 [弥生王墓の丘]

出雲市大津町

斐伊川左岸の丘陵上に位置する、弥生時代後期の墳墓群です。2・3・4・9号墓は全国最大級の四隅突出型墳丘墓で、代々の出雲平野の王が葬られたと考えられています。平成12年に国史跡に指定され、平成22年に史跡公園「出雲弥生の森」として整備が完了しました。墳丘をおおきく損なっていた2号墓は内部に展示室を設けて、全体を築造時の姿に復元しています。3号墓は島根大学考古学研究室を中心とした発掘調査がおこなわれ、埋葬の様子などが詳細に解明されました。裾廻りの列石、貼石のみ復元し、墳丘にのぼって見学できるよう埋葬施設を平面的に表示しています。また4号墓も墳丘を保護したうえで整備しています。それぞれの巨大な墳丘の上ののぼると、弥生時代の王が目にしたであろう出雲平野の眺めを味わうことができます。

史跡に隣接する出雲弥生の森博物館では、西谷墳墓群の出土品や模型、調査時の様子を展示しているほか、出雲市内の遺跡について総合的に展示していますので、ぜひ史跡公園とあわせて見学ください。

【所在地】出雲市大津町 【お問合せ】出雲市文化財課 / TEL.0853-21-6893

## 出雲弥生の森博物館

【開館時間】9:00～17:00

【入館料】常設展は入館無料※特別展・企画展は有料【休館日】火曜日(祝日の場合は翌日・年末年始)

【お問合せ】TEL.0853-25-1841



整備された3号墓、左奥に2号墓



2号墓展示室内の埋葬施設模型



博物館内に設置された3号墓の復元模型



**国指定** こうじんだいせき **荒神谷遺跡** [国宝!国内最多の358本銅剣出土] **出雲市斐川町**

昭和59年、農道建設のための事前調査をきっかけに358本もの銅剣が、さらに翌年には銅鐸6個、銅矛16本が出土し、出雲地域の弥生時代像を大きく塗り替えた著名な遺跡です。遺跡は昭和62年に国指定史跡となり、平成7年には一帯が史跡公園として整備されました。広大な公園には復元住居や古代米を栽培する水田のほか、アスレチックも設けられています。平成17年には公園内に荒神谷博物館が開館し、遺跡について学ぶことができるほか、出土青銅器の展示をはじめ様々な企画展も開催しています。

【所在地】出雲市斐川町神庭  
【お問合せ】出雲市文化財課  
TEL.0853-21-6893



復元整備された出土地



荒神谷遺跡出土青銅器



**荒神谷博物館**

【開館時間】9:00～17:00  
【入館料】一般200円・小中学生50円  
【お問合せ】TEL.0853-72-9044  
【ガイド】あり・要予約

←古代ハスと荒神谷博物館

**国指定** かもいわくらいせき **加茂岩倉遺跡** [国宝!国内最多の39個銅鐸出土] **雲南市加茂町**

平成8年、農道建設工事中に偶然発見され、39個の銅鐸が埋納されていたことが確認されました。荒神谷遺跡に続く、出雲の青銅器多量埋納として全国的に注目された遺跡です。平成11年に国指定史跡となり、その後史跡の整備事業がおこなわれました。現地には発見直後の生々しい出土状況が再現されているほか、ガイダンス施設、園路が整備されています。ガイダンス施設には銅鐸のレプリカや、発見時のドキュメント映像上映、遺跡の解説パネルなどが設置されており、出土地とあわせて見学することで、遺跡の全体像を体感することが可能です。

【所在地】雲南市加茂町岩倉  
【お問合せ】雲南市教育委員会  
TEL.0854-40-1300



出土状況の復元整備



加茂岩倉遺跡出土銅鐸



**加茂岩倉遺跡ガイド**

【開館時間】9:00～17:00【入館料】無料  
【休館日】火曜(祝日の場合は開館)  
【お問合せ】TEL.0854-49-7885  
※ガイド希望は事前に問い合わせ

**国指定** いのめどうくつせき **猪目洞窟遺跡** [黄泉の穴伝説のある洞窟] **出雲市猪目町**

島根半島の北側、猪目湾に口をあけた海蝕洞窟内が遺跡です。昭和23年の漁港改修の際に発見され調査がおこなわれました。

その結果、弥生～古墳時代の埋葬された人骨十数体、弥生時代の貝輪や古墳時代の木製品を始めとした多くの遺物が含まれている重要な遺跡であることが判明し、昭和32年に「猪目洞窟遺物包含層」として国の史跡に指定されました。『出雲国風土記』に記載のある「黄泉の穴」がこの洞窟ではないかとする説が有力です。洞窟内は足場が悪く、天井から石の崩落がありますので危険です。なお、出土品は出雲市立弥生の森博物館に所蔵され、一部が展示されています。

【所在地】出雲市猪目町 【お問合せ】出雲市文化財課／TEL.0853-21-6893



人骨の腕に装着されていた貝輪



猪目洞窟の開口部

**まなしいせき** **真名井遺跡** **出雲市大社町**

【武器形青銅器と優美な玉を捧ぐ】

江戸時代の出雲大社本殿造営の際に、出雲大社の東方約200mに鎮座する摂社命主社の背後の大石下から硬玉(ヒスイ)製勾玉と武器形青銅器が出土したと記録されています。武器形青銅器は4点あったようですが、現在出雲大社には宝物として銅戈1点が伝わっています。ヒスイは北陸と、銅戈は九州との交流を物語るもので、出雲大社周辺がはやくに祭祀空間として特別であったことを示す資料と考えられてきました。現在も出土地である命主社の社殿背後には大石があり、聖域としての雰囲気を感じることができます。

【所在地】出雲市大社町杵築東字真名井  
【お問合せ】出雲市文化財課／TEL.0853-21-6893



出土地に鎮座する命主社



出土した銅戈と勾玉(出雲大社所蔵)

**はらやまいせき** **原山遺跡** **出雲市大社町**

【日本海でつながった弥生文化の受容】

出雲大社の南東約1km、通称原山と呼ばれる砂丘上にある遺跡です。昭和18年に発見されて以後、幾度か発掘調査されています。昭和60年の調査では、埋葬の上に大きな石を円形や長方形に並べる弥生時代前期の配石墓5基が確認されました。出雲平野周辺でもっとも早い時期に弥生文化が伝播した遺跡として、古くから知られている著名な遺跡です。特に見学できる施設はありませんが、遺跡は砂丘一帯に広がっています。西原荒神社付近が良好に遺跡が残されており、地形や立地の観察が可能です。

【所在地】出雲市大社町修理免  
【お問合せ】出雲市文化財課／TEL.0853-21-6893



発掘された配石墓



遺跡周辺の様子



国  
指定ちゅうせんじふんぼぐん  
仲仙寺墳墓群 [四隅突出墓を世に知らしめた遺跡]

安来市西赤江町

昭和45年、宅地造成工事に先立つ発掘調査によって、当時ほとんど調査例の無い四隅突出型墳丘墓であることが判明しました。同じ丘陵上にある古墳群が次々と工事で消滅するなか、昭和46年に四隅突出型墳丘墓2基(8号墓・9号墓)が国の史跡に指定され現地に保存されることとなりました。仲仙寺墳墓群は四隅突出型墳丘墓という特徴的な墳墓が広く存在することを証明しただけでなく、開発と重要遺跡保存の対立という当時の社会状況を象徴する点で、大きな画期となる遺跡です。発掘調査された9号墓は墳丘を保護して整備されていて、現状保存された8号墓とともに見学できます。

【所在地】安来市西赤江町字深廻

【お問合せ】安来市教育委員会 / TEL.0854-23-3316



整備された仲仙寺9号墓

国  
指定みやまよんごうぼ  
宮山Ⅳ号墓 [最終段階の四隅突出墓]

安来市西赤江町

安来市立第三中学校がある丘陵上に築かれた四隅突出型墳丘墓です。造成工事による破壊の危機にあった昭和49年、仲仙寺墳墓群(史跡指定名称「仲仙寺古墳群」)に含めた国指定史跡となり、その後公有地化されて整備がおこなわれました。丘陵上には他に全長56mの前方後方墳もありましたが、造成工事により消滅しています。Ⅳ号墓は墳丘を保護した上に列石や埋葬施設が復元的に表示されています。また隣接した竪穴建物跡と前方後方墳1基も見学することが可能です。

【所在地】安来市西赤江町字宮山

【お問合せ】安来市教育委員会 / TEL.0854-23-3316



整備直後の宮山Ⅳ号墓

国  
指定しおづやまふんぼぐん  
塩津山墳墓群 [四隅突出墓の要素を残す前期古墳]

安来市久白町

塩津山墳墓群は弥生時代後期後半の大型四隅突出型墳丘墓2基、後続する古墳9基からなり、平成11年に造山古墳群・大成古墳とあわせて国指定史跡となっています(指定名称は「荒島古墳群」)。安来道路建設にともない一部を発掘調査した1号墳は、墳丘の形や貼石に四隅突出型墳丘墓の特徴を残す点で定型的な古墳への過渡的な姿を示す貴重な遺跡であることから、トンネルの上に保存して復元整備されています。塩津山トンネル東側の高架下から見学路があり見学可能です。

【所在地】安来市久白町字塩津

【お問合せ】安来市教育委員会 / TEL.0854-23-3316



トンネルの上に整備された塩津山1号墳

県  
指定ほりべだいいちいせき  
堀部第1遺跡 [開拓者たちの墓]

松江市鹿島町

現在「多久の湯」などがある福祉ゾーン整備のために平成10年から発掘調査されました。その結果「長者の墓」と呼ばれる円丘の裾を取り囲むように配置された57基以上の墓が見つかり遺跡の重要性が判明したことから、一部は現状保存され、平成16年に県指定史跡となっています。お墓は木棺を埋めた墓穴の上に石を敷き並べた特殊な構造のもので、土器の形態とともに北部九州などの影響が強く認められます。弥生時代前期に稲作と弥生文化を伝えた集団の墓地と考えられます。福祉センター地内には墓の位置表示がされているほか、センター隣接地には敷き並べた石が移設してあり見学可能です。

【所在地】松江市鹿島町北講武 【お問合せ】松江市教育委員会 / TEL.0852-55-5284

墓の位置を表示した整備後の様子↑  
発掘調査時の様子→国  
指定こうらさきゆういせき  
古浦砂丘遺跡 [海近くに葬られた人々]

松江市鹿島町

日本海の海岸砂丘にある遺跡で、弥生時代前期から中期の集団埋葬が確認されています。人骨は60体以上確認されており、貝輪を装着した子供の人骨などがあります。朝鮮半島南部の特徴をもつ土器が出土するなど、日本海を介した人の移動がうかがえます。現地は現在、まっえ北商工会裏の砂山となっており説明板が設置されています。出土品は鹿島歴史民俗資料館で展示しています。

【所在地】松江市鹿島町古浦字砂山 【お問合せ】鹿島歴史民俗資料館 / TEL.0852-82-2797

↑貝輪をはめた子供の人骨  
←並ぶように埋葬された人骨国  
指定しだにおくいせき  
志谷奥遺跡 [偶然発見された青銅器]

松江市鹿島町

昭和48年、狭い谷の急斜面の中ほどで偶然、銅鐸2個と銅剣6本が掘り出されました。発見時に状況を聞き取り、昭和50年に出土地点を発掘調査したところ、埋納されていた穴と、発見時の掘り上げられていた銅剣の先端部が発見されています。出土地には標柱が立てられています。なお出土青銅器は八雲立つ風土記の丘で保管されています。

【所在地】松江市鹿島町佐陀本郷字志谷奥

【お問合せ】松江市教育委員会

TEL.0852-55-5284

## 鹿島歴史民俗資料館

【開館時間】9:00~17:00

【入館料】大人320円

【お問合せ】TEL.0852-82-2797



出土地遠景



埋納坑に復元的におかれた銅鐸と銅剣



あさくみがわいせきぐん

**朝酌川遺跡群** [県下随一の大規模遺跡]

松江市西川津町

朝酌川に沿った低湿地遺跡群で、2kmにわたって連なる西川津遺跡、原の前遺跡、タテチョウ遺跡などを総称したのが朝酌川遺跡群です。昭和52年以降、河川改修などともなつて発掘調査がおこなわれ、膨大かつ優れた出土品が出土し著名な遺跡となりました。ムラの縁辺に広がる湿地であったとみられ、護岸施設や溝跡などが確認されていますが、生活域本体は良くわかっていません。土手上的公園に遺跡の解説板が設置されています。



設置されている説明板



人面付土器(土器本体は失われている)

【所在地】松江市西川津町 【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター／TEL.0852-36-8608

市の指定 やのいせき

**矢野遺跡** [出雲市矢野町]

[出雲平野の中核となるムラ]

出雲平野の中央部、標高4mほどの微高地上に広がる大規模な集落跡です。河川改修などにもない平成20年まで発掘調査がおこなわれました。弥生時代前期にはすでに出雲平野での拠点的な集落として出現し、その後隣接する小山遺跡などと一体となって大きなムラを形成していました。ムラの中で石器や玉、木器などさまざまな道具を生産していたようです。また、他地域との交流を示す出土品も多数出土しています。有力者の存在を示唆する装飾品などが出土することから、出雲平野のリーダーのもとにまとまった集落なのかもしれません。現地は特に見学できるところがありません。



弥生時代前期の土器群

【所在地】出雲市矢野町【お問合せ】出雲市文化財課 TEL.0853-21-6893

こしいせきぐん

**古志遺跡群** [出雲市古志町・下古志町]

[神戸川左岸の大規模なムラ]

出雲平野の南寄り、神戸川左岸の微高地上に広がる大規模な集落跡です。古志本郷遺跡、下古志遺跡、田畑遺跡などをまとめて古志遺跡群と呼称しています。斐伊川放水路事業に伴う神戸川の拡幅や、道路建設事業のために発掘調査がされました。環濠とみられる大溝が見つかり、弥生時代後期を中心とする時期に大きく集落が展開したと考えられます。中国に由来する断面三角形の銅製三稜鏃が出土しており、広域の交流をおこなっていたことを示しています。遺跡の多くは地中に保存されていますが、現状で特に見学できるところはありません。



土器を多量に廃棄した溝跡

【所在地】出雲市古志町・下古志町【お問合せ】出雲市文化財課／TEL.0853-21-6893

あおきいせき

**青木遺跡** [出雲市東林木町]

[出現期の四隅突出墓]

国道431号東林木バイパスの建設のために発掘調査され、平成15年には隅がこわずかに突出した四隅突出型墳丘墓が見つかりました。四隅突出墓の出現期にあたる弥生時代中期後葉のもので、発生元とみられていた三次盆地と同時期に、出雲平野でも四隅突出墓が造られていることがわかりました。このほか3基の四隅突出墓が確認されたほか、大型の「見る銅鐸」の縁辺にあたる飾耳の破片が出土し注目された遺跡です。現在は埋め戻し保護した道路事業地内に、出現期の墳丘墓が復元されており見学が可能です。

【所在地】出雲市東林木町【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター／TEL.0852-36-8608



出現期の四隅突出墓(手前が墳丘の隅)



銅鐸の飾耳

ざんもちいせき

**山持遺跡** [出雲市里方町・西林木町]

[腐らなかった柱材]

出雲平野北辺の水田域にひろがる遺跡で、国道431号東林木バイパス建設のため平成12年から発掘調査されました。弥生時代後期末頃とみられる建物跡5棟が見つかり、中には木製柱材が腐らずそのまま土中に残されているものもありました。柱の沈下を防ぐための枕木状の木材の上に柱を立てるなど、地盤が軟弱な低地ならではの構造が残っており貴重な調査事例となりました。山持遺跡では多くの弥生時代の遺物が出土しており、他地域との交流を示す資料もいくつかみられます。発掘調査後は道路が建設されており、見学することはできません。



柱材が残っていた掘立柱建物跡

【所在地】出雲市里方町・西林木町【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター／TEL.0852-36-8608

なかのみほいせき

**中野美保遺跡** [出雲市中野町]

[低地で初めて見つかった四隅突出墓]

出雲平野の中央部に東西に横断する国道9号線出雲バイパスの建設にもない、多くの遺跡が発掘調査されています。中野美保遺跡では標高5m足らずの沖積低地で弥生時代中期中葉の方形貼石墓と、弥生時代後期後葉の四隅突出型墳丘墓が見つかりました。この発見以前には、四隅突出墓は丘陵上などの安定した地盤を選んで築かれたと理解されていきましたので、低地の平野中心部で発見されたことが話題となりました。道路が建設されていて現地は残されていませんが、遺跡の近くにある美保北公園には四隅突出墓をイメージしたオブジェが設置されています。



低地からみつかった四隅突出型墳丘墓

【所在地】出雲市中野町【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター TEL.0852-36-8608

ひめばらにしいせき

**姫原西遺跡** [出雲市中野町]

[多様な木製品が語る弥生の暮らし]

出雲平野中央部にある遺跡で、国道9号線出雲バイパスの建設にもない平成8・9年に発掘調査されました。旧河道から弥生時代後期の遺物が大量に堆積した状態で見つかりました。特に木製品は、食器・容器など日用雑器類から農耕具、また祭祀具など多種多様なものが出土しており、弥生時代の暮らしぶりを具体的に物語る資料となっています。珍しいものとして、当時中国で使用された弩(いしゆみ)を模した製品があります。弩は強力なボーガン型の武器で、日本では使用されなかったと考えられています。この製品は実用品とはみられず、模して作られた祭祀用具の可能性もあります。



弩を模した木製品

【所在地】出雲市姫原町【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター TEL.0852-36-8608



よこたはちまんぐう  
**横田八幡宮**

奥出雲町中村

〔鎌倉時代にみつかった銅剣〕

横田盆地を見渡す丘陵地形にあり、横田八幡宮を勧請のため、もともとあった横田神社の社地を拡張した際に銅剣が出土したと伝わっています。正確な出土地点や出土状況はわかりません。

横田八幡宮から出土したと伝わる銅剣は県指定有形文化財になっており、古代出雲歴史博物館で展示されています。

【所在地】奥出雲町中村  
【お問合せ】奥出雲町教育委員会  
TEL.0854-52-2680



横田八幡宮境内の様子



横田八幡宮出土と伝わる銅剣

いたやさんいせき  
**板屋皿遺跡**

飯南町志津見

〔山間部でみつかった配石墓〕

神戸川を見下ろす低い丘陵の上にある遺跡です。志津見ダム建設にともない平成6年から発掘調査がおこなわれ、弥生時代前期後葉の配石墓6基が見つかりました。埋葬した穴の上に人頭大の石を目印のように並べたもので、出雲地域の山間部では貴重な発見となりました。また弥生時代後期後葉の竪穴建物跡13棟も確認されています。現地は見学できません。

【所在地】飯南町志津見  
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL.0852-36-8608



配石墓群を調査している様子

ひらたいせき  
**平田遺跡**

雲南市木次町

〔鉄器を加工した工房の跡〕

斐伊川上流域、温泉小学校の周辺に広がる縄文時代からの遺跡です。斐伊川の河川改修事業のため平成11年に発掘調査がおこなわれました。弥生時代後期中葉の竪穴建物跡内から4基の鍛冶炉が見つかり、鉄製品や鉄の破片が出土しています。素材を遠隔地から入手して、比較的低い温度で加熱し折り曲げたり切断して加工したと考えられます。県内でも最も古い段階の鍛冶工房として注目されます。遺構は工事により消滅しましたが、遺跡としては周辺に広がっているものとみられます。

【所在地】雲南市木次町平田  
【お問合せ】雲南市教育委員会／TEL.0854-40-1300



斐伊川に接する遺跡



切断した様子わかる鉄製品

きたはらほんごういせき  
**北原本郷遺跡**

雲南市木次町

〔斐伊川そばの小さなムラ〕



焼失した状況で見つかった竪穴建物跡

蛇行する斐伊川左岸の河岸段丘上に営まれた縄文～中世の遺跡です。弥生時代中期～後期の竪穴建物跡が10棟確認されており、氾濫原であっても川に面した便利の良い場所に継続して居住していたことがうかがえます。建物のうち1棟は建築材が燃え落ちた状態で見つかりました。平成14年から発掘調査がおこなわれ、現在は尾原ダムのダム湖に沈んでいます。

【所在地】雲南市木次町北原  
【お問合せ】島根県埋蔵文化財調査センター／TEL.0852-36-8608

もりいせきぐん  
**森遺跡群**

〔神戸川に面した大集落〕

飯南町八神

便宜上森遺跡～森VI遺跡と名付けられたものを含む遺跡群の総称で、神戸川左岸の河岸段丘上に営まれています。圍場整備や道路改良などで発掘調査がおこな



住居跡発掘の様子

れました。発掘されたのは遺跡のごく一部ですが、弥生時代には段丘上に大規模な集落が広がっていたとみられます。調査では50棟以上の建て庵建物跡や、十数基のお墓が見つっています。現地には見学できることはありませんが、森遺跡群をはじめとする飯南町内から出土した出土品は八神文化財収蔵施設に所蔵されており、一部が見学可能です。見学希望の場合は、事前にお問い合わせください。

【所在地】飯南町八神 【お問合せ】飯南町教育委員会／TEL.0854-72-0301



お墓から出土した管玉

しまねけんりつこたいいずもれきしはくぶつかん  
**島根県立古代出雲歴史博物館**

県内の貴重な文化財を多数展示



出雲大社東となりにある博物館で、島根の歴史をものごたる貴重な文化財を多数展示しています。総合展示「島根の人々の生活と交流」コーナーでは島根の弥生時代を詳しく解説しています。また、テーマ別展示「青銅器と金色の大刀」コーナーでは、荒神谷、加茂岩倉をはじめ県内で出土した弥生青銅器を一同に集めて展示しています。島根の弥生時代について知るには、まずこの博物館からご覧ください。

【開館時間】9:00～18:00(11月～2月は9:00～17:00)  
【入館料】常設展：一般600円・大学生400円・小中高生200円／企画展：展示ごとに金額が異なります。※年間パスポート(1,500円)有り  
【お問合せ】TEL.0853-53-8600(代)  
【駐車場】一般244台／大型バス15台  
【交通】一畑電車出雲大社駅から徒歩7分※JR出雲市駅からは一畑電車乗り換え／一畑バス「古代出雲歴史博物館前」降車／出雲空港から空港連絡バス[出雲大社行35分(出雲大社)]



# 伯耆地域の遺跡

伯耆地域では、日本海の沿岸部に点在する潟湖や内海の近く、または砂丘微高地の上に弥生時代前期の村が営まれます。前期の終わり頃には、平野部に面した丘陵上に環濠を築く集落も現れました。

中期から後期には、大山山麓の緩やかな丘陵上にたくさんの村が営まれ、「魏志倭人伝」時代-2世紀頃一には、国史跡妻木晩田遺跡に代表される大規模な村が現れます。後期の初め頃には、四隅突出型や方形の墳丘墓が大山山麓の各所に造営されはじめます。墳丘墓の出現は、この地域における有力者層の台頭、集団社会の変化を示す重要な現象と考えられます。

また、大山山麓で見つかる弥生時代後半期の集落跡からは、しばしば焼失した竪穴住居跡がたくさん見つかっています。焼失住居跡からは炭化した建築材が出土し、妻木晩田遺跡に復元されている竪穴住居には、これら炭化した建築部材等の調査研究成果が活かされているのです。



国指定

## むきばんだいせき 妻木晩田遺跡 [甕の弥生の国邑]

米子市・大山町

大山北西麓の丘陵に立地する全国最大規模を誇る弥生時代後半期の集落跡。弥生時代中期には始まり、後期後半(2世紀後半)に集落規模は最盛期を迎えます。往時170ha以上の範囲に居住域が点在していたと考えられています。弥生時代の歴史を考えるうえで極めて重要な遺跡として、現在約152haが国の史跡に指定されています。遺跡の中に洞ノ原、妻木山、仙谷、妻木新山、松尾頭、松尾城、仙谷という地区があり、整備を終えた洞ノ原、妻木山、仙谷、妻木新山地区が一般に公開されています。

山陰道「淀江・大山IC」から東を望むと、小高い丘の上に茅を葺いた2棟の高床倉庫が見えます。そこが洞ノ原地区西側丘陵です。ここには2世紀後半の竪穴住居や高床倉庫等が復元されています。洞ノ原地区から見た雄大な日本海の景観は、『魏志倭人伝』の冒頭に記された「倭人は山島に依りて国邑をなす」という一文を彷彿とさせます。

ガイド施設「弥生の館むきばんだ」ではいろいろな古代体験を楽しむことができ、「弥生の暮らし」をテーマにした展示室では、復元された道具に触れながら楽しく学習することができます。遺構展示館の中には、発掘調査当時のままで竪穴住居跡が保存され、展示館前の発掘体験ひろばでは、発掘調査を疑似体験できます。

【所在地】米子市淀江町福岡、西伯郡大山町妻木ほか 【お問合せ】鳥取県立むきばんだ史跡公園



弥生の館むきばんだ(展示・体験学習施設)



よみがえった最盛期のムラ(妻木山地区)



洞ノ原地区西側丘陵全景



復元された高床式倉庫(洞ノ原地区)



美水の郷古代ロマンウォーク(H23)



Information

鳥取県立むぎばんだ史跡公園

【開場時間】9:00～17:00(入場は16:30まで)

【入場料】無料

【休館日】毎月第4月曜日(祝祭日の場合はその直後の休日ではない日)、年末年始(12/29～1/3)

【お問い合わせ】〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4 / TEL.0859-37-4000 FAX.0859-37-4001



遺構展示館と発掘体感ひろば(妻木山地区)



遺構展示館内部(妻木山地区)

見どころ

展示室

弥生の館むぎばんだでは、妻木晩田遺跡の主な出土品を展示しており、淀江平野や妻木晩田遺跡の歴史を知ることができます。

竪穴住居跡の展示

妻木山地区にある遺構展示館には、3棟の竪穴住居跡が発掘当時の状態で保存されています。復元竪穴住居と併せて、こちらもご覧ください。



洞ノ原地区(第5回むぎばんだ弥生の国語写真コンクール優秀賞 藤井啓可氏 撮影)



絵画土器(松尾頭地区出土)



ボランティアガイドによる解説

妻木晩田遺跡では発見された土器や鉄器、約900棟に及ぶ住居や建物跡、30基以上の墳丘墓等、丘陵の尾根上で生活した弥生人の痕跡が、広大な範囲に良好に残っています。しかし、これらの住居跡や墳墓の全てが同じ時期に存在していたのではなく、弥生時代の終わりのころの、約300年間に及ぶ生活の積み重ねなのです。

仙谷地区

洞ノ原墳墓群の次に作られ始めた墳丘墓群で、四隅突出型墳丘墓を含む7基が見つっています。



妻木新山地区

1世紀後半から2世紀前半頃に栄えた地区です。虫、木の葉の森を整備しています。



弥生の館むぎばんだ

妻木山地区

竪穴住居が70棟近くも見つっています。妻木晩田遺跡の最盛期頃のムラの跡です。



整備された妻木山地区

洞ノ原地区西側丘陵

直径65mもある環濠と呼ばれる大きな溝が丘陵を囲むように掘られています。



洞ノ原地区東側丘陵

平面四角形の四隅が突出した四隅突出型墳丘墓などがあります。



松尾頭地区

ムラのリーダーの居住区だったと思われる大型の竪穴住居、方形建物、中国製の鏡などが見つきました。



松尾城地区

2世紀後半から3世紀に営まれた生活の跡が残っています。



体験

むぎばんだ史跡公園では、日本海や弓ヶ浜半島といった雄大な景色を背景に、復元された弥生のムラや、お墓、発掘された住居跡、弥生人にたくさんの恵をもたらした「むぎばんだの森」の見学や散策ができます。また、火おこし、勾玉づくりといった古代体験、発掘体験あそびなどを楽しむことができます。



弥生の村人になりきって(新緑・秋麗まつり)



火おこし体験



貫頭衣を着て、ハイチース!



古代体験の作品(土笛・勾玉・石包丁・銅鏡)



いなよすみだいせき  
稲吉角田遺跡 [弥生の世界観が描かれた土器]

米子市

稲吉角田遺跡は、弥生の絵画土器(県指定保護文化財)が出土したことで著名な遺跡です。大きな壺の頸部をキャンバスに、頭に大きな羽根飾りをつけた人達が船を漕ぐ姿、楼観を想わせる高層建築、銅鐸?がつり下げられた木、たたずむ鹿が、まるで絵巻物のように描かれています。また、近くにある中西尾7号墳(日吉塚)からは右手に楯をもつ武人を描いた絵画土器が出土しています。この武人の頭に描かれた三角形の大きな頭飾りは、妻木晩田遺跡の松尾頭地区で出土した「竪穴住居の前に立つ人物」の頭飾りと共通しています。2つの人物像は淀江潟周辺に暮らした弥生人たちの祭りの装いを今に伝えています。

Information

上淀白鳳の丘展示館



左に紹介している稲吉角田遺跡出土の絵画土器のほか、史跡上淀廃寺跡の壁画など、淀江町内でみつかっている文化財を中心に展示しています。

【お問い合わせ】  
鳥取県米子市淀江町福岡979-2  
TEL.0859-56-2271



【所在地】米子市淀江町稲吉  
【お問合せ】米子市教育委員会 / TEL.0859-23-5437



壺の頸に描かれた絵画

おだかあざやまいせき  
尾高浅山遺跡 [3重の環濠に囲まれた村と四隅突出型墳丘墓]

米子市

日野川東岸の平野をみおろす小丘陵にある遺跡です。小さな谷を挟み、北側の丘陵に3重の環濠に囲まれた居住域、南側の丘陵には四隅突出型墳丘墓があります。いずれも後期の初め頃に営まれたものです。3重の環濠に囲まれた丘陵頂部からは竪穴住居跡や川原石を積み上げた遺構が発見されました。この川原石は武器としてもちいられた「つぶて石」ではないかと考えられます。また、四隅突出型墳丘墓は妻木晩田遺跡の洞ノ原墳墓群と並ぶ、この地域最古級の墳丘墓です。尾高浅山遺跡の環濠と墳墓は、1世紀後半の社会環境、そして大山山麓地域における有力者層の出現を教えてください。現地に立ち入りはできませんが、県道53号線から大山を背景にした遺跡の全景をご覧ください。  
【所在地】米子市尾高 【お問合せ】米子市教育委員会 / TEL.0859-23-5437



積み上げられた「つぶて石」

Information

福市考古資料館



福市史跡公園の入口にあり、福市遺跡や、隣接する青木遺跡の出土品をはじめ、日久美遺跡の縄文土器、陰田遺跡の古代の遺物等々が展示解説してあります。米子市の歴史を詳しく知りたい方は、まずはここに訪れ、貴重な出土品を見学してください。

【開館時間】9:30~17:00  
【入館料】無料  
【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始  
【お問い合わせ】鳥取県米子市福市461-20 / TEL.0859-26-3784



ふくいちいせき  
福市遺跡 [市民憩いの史跡公園]

米子市

米子市の南部に広がる丘陵地帯は古くから人々の生活の舞台として利用されており、数多くの遺跡がこれまでに確認されています。

福市遺跡は、日野川と法勝寺川の合流地点にある福市丘陵全面に広がる集落遺跡です。住宅団地等の造成が計画され、昭和40年代に大規模な発掘調査が行われました。その結果、弥生時代後期(2世紀)から古墳時代後期(5世紀)頃の竪穴住居跡や墳墓が多数発見され、山陰地方の集落の発展を考える上で極めて貴重な遺跡として注目を集めました。遺跡の一部は国指定史跡として保存活用されています。

現在、福市遺跡公園として整備された遺跡には、竪穴住居等が復元展示してあります。緑も豊かで、桜、ツツジ、菖蒲の花も楽しめる市民憩いの公園として親しまれています。

【所在地】米子市福市  
【お問合せ】米子市教育委員会 / TEL.0859-23-5437



復元竪穴住居



あおきいせき  
青木遺跡 [多くの掘立柱建物跡が見つかった弥生のニュータウン]

米子市

福市遺跡の南側に接する大規模な集落遺跡です。青木丘陵と呼ばれる標高40m程の緩やかな丘陵には縄文時代晩期から中世にいたる様々な時代の遺跡が存在しています。福市遺跡同様、住宅団地等の大規模な造成が計画され、昭和50年代に40haにもおよぶ遺跡の調査が行われました。その結果、弥生時代中期から奈良時代の人々が生活した竪穴住居跡約130棟、掘立柱建物跡240棟をはじめ、縄文時代の落と穴や古墳等、貴重な遺構がたくさん見つかりました。

中でも弥生時代中後期の竪穴住居跡とともに見つかった掘立柱建物跡は、当時、他にあまり類例のない貴重な発見でした。そして、弥生時代中期から後期、そして古墳時代、奈良時代へと移り変わる様子が、実際に1つの遺跡でたどれる西日本最大規模の集落跡として多くの人々に注目されました。

現在、遺跡の一部が国の史跡に指定され、団地の中に史跡公園として整備されています。

【所在地】米子市青木、永江 【お問合せ】米子市教育委員会 / TEL.0859-23-5437



多数みつかった掘立柱建物跡



めぐみいせき  
目久美遺跡 [水田跡が発見された集落跡]

米子市

縄文時代前期以来、長い歴史をもつ米子平野の拠点的な集落遺跡です。弥生時代の主な遺構に水田跡があります。水田には弥生人の足跡が点々と残っていました。木製の農具なども多数出土しています。弥生時代後期の中頃に大水害によって埋没した大水路も見つかっています。幅4m、深さ2m、長さ数百mにわたって続くこの水路は水田に水を運ぶために作られたものと考えられます。なお、このときの被害で大きなダメージを受けた目久美遺跡は長い集落の歴史に幕を降ろします。出土品は、現在、福市考古資料館や山陰歴史館に展示してあります。  
【所在地】米子市目久美町 【お問合せ】米子市教育委員会 / TEL.0859-23-5437



水田跡



Information

米子市埋蔵文化財センター／山陰歴史館



米子市埋蔵文化財センター

米子市内を中心とした考古資料を展示しています。

【開館時間】9:00～17:00

【入館料】無料

【休館日】毎週土曜・日曜日・祝日・年末年始(12月29日から1月3日)

なお、施設利用や行事によっては臨時休館あり。

【お問合せ】米子市福市281／TEL.0859-26-0455



山陰歴史館

主な弥生時代展示品は、目久美遺跡出土土製品。旧米子市役所を利用した歴史資料館です。

【開館時間】9:30～18:00 【入館料】無料

【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始

【お問合せ】米子市中町20／TEL.0859-22-7161

ちやばたいせきぐん

茶畑遺跡群 [大型祭殿建物が発見された中期の集落跡]

大山町

大山山麓を代表する弥生時代中期の集落跡です。特に茶畑山道遺跡では、大型の掘立柱建物跡が多数見つっています。特に注目されるのは、独立棟持柱をもつ遺跡最大の掘立柱建物跡です。建物の正面には、瀬戸内系とみられる土器や赤彩された土器が出土しています。また、周辺から銅鐸形土製品も出土しました。祭祀に関連した遺物を伴うことから、この建物跡は集落を象徴する建物跡だったと考えられます。調査後、遺跡は埋め戻され、現地に保存されています。

【所在地】西伯郡大山町茶畑ほか

【お問合せ】大山町教育委員会

TEL.0859-54-5212



独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物跡(茶畑山道遺跡)

ながせたかほまいせき

長瀬高浜遺跡 [日本最古級の玉作り工房跡]

湯梨浜町

湯梨浜町の砂丘地帯に位置する長瀬高浜遺跡は、古墳時代の埴輪群が見つかったことで有名な遺跡ですが、弥生時代でも注目されるものが見つっています。

昭和56年の調査でみつかった弥生時代前期の竪穴住居跡2棟のうち1棟から、管玉など玉製品の作りかけの素材や石材のカスが多量にみつかり、日本最古級の玉作りの跡として注目を集めました。

湯梨浜町歴史民俗資料館では、長瀬高浜で行われた玉作りの過程がわかるように、素材から製品まで展示してあります。

【所在地】東伯郡湯梨浜町長瀬

【お問合せ】湯梨浜町教育委員会／TEL.0858-35-5367



玉作りの過程がわかる展示(県指定保護文化財)

Information

湯梨浜町羽合歴史民俗資料館



長瀬高浜遺跡出土埴輪群

主な弥生時代展示品

- ・長瀬高浜遺跡出土土製品
- ・長瀬高浜遺跡出土土器



玉作り工房と考えられる竪穴住居跡(SII13)

国指定重要文化財である長瀬高浜遺跡出土埴輪を始め、湯梨浜町で出土した遺物を展示しています。家形埴輪を模した建物も魅力です。

【開館時間】9:00～16:30

【入館料】大人100円

【休館日】月曜、祝日、年末年始

【お問合せ】湯梨浜町久留19-1／TEL.0858-35-3111

ながやまごめいせき

長山馬籠遺跡

伯耆町

[鳥取最大の掘立柱建物跡]

日野川の中上流域を代表する弥生時代中期の集落跡です。

ここでは鳥取県最大の掘立柱建物跡が見つっています。この大型建物跡の特徴は建物の片側に庇があることです。

また、建物の内部にあったと考えられる土坑から、赤彩された壺や高坏が出土しました。隣接する大型の竪穴住居跡からは、漆塗の甕や高坏、舶載品とみられる鉄斧等が出土しています。山間地域の拠点として営まれた村だったと考えられます。

【所在地】西伯郡伯耆町長山

【お問合せ】伯耆町教育委員会／TEL.0859-62-0712

こしきさんいせき

越敷山遺跡

伯耆町・南部町

[日野川左岸の大規模集落]

伯耆町と南部町にまたがる越敷山に広がる弥生時代後期の集落遺跡。妻木晩田遺跡と同時期に営まれた山陰地方を代表する大規模集落です。約150棟の竪穴住居跡をはじめ、たくさんの建物跡が見つっています。

この集落跡に伴う墳丘墓等はまだ見つっていませんが、大量の鉄器を保有していることから、この地域の拠点的な集落であったと考えられます。

【所在地】西伯郡伯耆町小町・西伯郡南部町荻名

【お問合せ】伯耆町教育委員会・南部町教育委員会

TEL.0859-62-0712・0859-64-3787

みやうちだいいちいせき

宮内第1遺跡

[弥生時代最長の鉄刀]

湯梨浜町

東郷池を望む丘陵尾根上に立地する遺跡で、四隅突出型墳丘墓1基を含む4基の墳丘墓が見つっています。

四隅突出型墳丘墓である宮内1号墓には、鉄剣(第1主体部)、鉄刀(第2主体部)、管玉(第3主体部)が副葬されていました。このうち鉄剣・鉄刀はそれぞれ現在日本でみつっている弥生時代鉄剣・鉄刀では最長のものです。

外国製(中国・朝鮮半島製)と考えられるこれらの鉄製武器は、宮内1号墓に葬られた人物の性格を想像させてくれます。

【所在地】東伯郡湯梨浜町宮内

【お問合せ】湯梨浜町教育委員会／TEL.0858-35-5367



↑出土した状況から、管玉は被葬者の首にかけられていたものと考えられます。

弥生時代最長の鉄刀(宮内第1号墳丘墓第2主体部・全長94.5cm)



国指定 **阿弥大寺墳丘墓群** [国府川流域を支配した首長の墓] **倉吉市**

天神川の支流・国府川の河岸段丘上に築かれた弥生後期後半の四隅突出型墳丘墓群です。1～3号墓の3基が東西に並列して築かれ、いずれも墳丘の南側だけ残っていました。墳丘の斜面と突出部には30cm角程の川原石が貼られ、特に突出部は稜線上に川原石が一行に並べ置かれていました。最も大きい1号墓は突出部を含めると東西17.8m、墳丘の残存高0.8mで、墳丘外の溝の中に大小12基の土壌墓を伴います。

現在は埋め戻して保存されており、出土品(県指定保護文化財)は倉吉博物館に展示されています。

【所在地】倉吉市下福田

【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419



現在の様子



出土した土器(県指定保護文化財)



発掘調査時の様子

なかみねいせき **中峯遺跡** **倉吉市**

[珍しい鳥形のスタンプ文土器]

久米ヶ原丘陵の東辺でみつかった弥生～奈良時代の集落跡です。調査地から150m離れた畑で、鳥形のスタンプ文を施した壺の破片が発見されています。

鳥形のスタンプは、山陰と山陽を結ぶ、ごく限られた地域でしか発見されておらず、当時、この倉吉地方と吉備には強い結びつきがあったことがうかがえます。

【所在地】倉吉市国府

【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419



鳥形のスタンプ文土器

うしろなかおいせき **後中尾遺跡** **倉吉市**

[弥生時代中期後半の環濠集落]

高城山から東へ延びる舌状台地でみつかった弥生時代中期後半の環濠集落です。

台地の基部と先端部に100mの間隔を開けて幅1m、深さ1mで断面V字状の溝を設け、集落を囲んでいました。

当時の集落は、三棟から四棟の竪穴住居が貯蔵穴を伴って、台地の四カ所に存在していました。

【所在地】倉吉市上米積

【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419



環濠集落

おおたにうしろだにふんきゅうぼぐん **大谷・後口谷墳丘墓群** [吉備と交流した有力者の墓] **倉吉市**

四王寺山南西の丘陵上に築かれた弥生後期後半の墳丘墓です。2基みつかっていて、どちらも四隅部分を掘り残して四辺に溝を設けた方形墳丘墓です。1号墓(16×12m)→2号墓(9×7m)の順に造られました。墳頂部と周溝から土器が出土しましたが副葬品はありませんでした。この丘陵下には弥生時代中期～古墳時代前期の集落がみつかり、この地域の有力者の墓と考えられます。出土品は、倉吉博物館で見ることができます。

【所在地】倉吉市大谷 【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419



方形墳丘墓



墳丘墓に供えられた土器(県指定保護文化財)

だいせんいけいせき **大山池遺跡** **倉吉市**

[独立棟持柱や庇をもつ大型建物]

天神野台地の大山池周辺に広がる縄文～平安時代の複合遺跡です。弥生時代中期後半の集落跡が調査され、独立棟持柱や庇をもつ堀立柱建物跡が見つっています。

【所在地】倉吉市関金町宇泰久寺

【お問合せ】倉吉市教育委員会 / TEL.0858-22-4419

まるやまいせき **丸山遺跡** **三朝町**

[山間部の要衝をおさえた集落]

三徳川と加茂川の合流点付近にある段丘上に立地する集落跡です。弥生時代中期～古墳時代前期の竪穴住居跡45棟、貯蔵穴を含む土坑35基などがみつっています。

【所在地】東伯郡三朝町本泉

【お問合せ】三朝町教育委員会 / TEL.0858-43-3510

にしたかえいせき **西高江遺跡** [宝石職人の集落] **北栄町**

弥生時代中期末～後期初頭の集落跡で、見つかった竪穴住居跡8棟中7棟から砥石と多量の水晶の破片が見つかり、弥生時代の宝石職人が住んだ集落と考えられています。

【所在地】東伯郡北栄町由良宿 【お問合せ】北栄町教育委員会 / TEL.0858-37-5871

かさみだいさんいせき **笠見第3遺跡** [大山東麓の拠点集落] **琴浦町**

田越の丘陵上に弥生時代中期末から古墳時代後期まで営まれた集落跡で、弥生時代の竪穴住居跡136棟、掘立柱建物跡10棟などが見つっています。弥生時代後期には赤色顔料や緑色凝灰岩製玉類の生産を行い、鉄器やガラス玉を多数保有するなど、地域の拠点的な集落であったと考えられます。

【所在地】東伯郡琴浦町笠見 【お問合せ】琴浦町教育委員会 / TEL.0858-52-1161



集落跡



伯耆地域の出土品紹介

1 名称 a 出土遺跡 b 時期 c 展示・保管している施設



- 1 土器
- a 長瀬高浜遺跡
- b 弥生時代前期
- c 湯梨浜町羽合歴史民俗資料館



- 2 絵画土器
- a 稲吉角田遺跡
- b 弥生時代中期
- c 上淀白鳳の丘展示館



- 3 木製桶
- a 目久美遺跡
- b 弥生時代中期
- c 米子市埋蔵文化財センター



- 4 土笛
- a 目久美遺跡
- b 弥生時代前期
- c 福市考古資料館



- 5 ガラス製の玉類
- a 吉谷上ノ原山遺跡
- b 弥生時代後期
- c 米子市埋蔵文化財センター



- 6 分銅型土製品
- a 阿弥大寺遺跡
- b 弥生時代後期
- c 倉吉博物館



- 7 田舟
- a 池ノ内遺跡
- b 弥生時代中期
- c 福市考古資料館



- 8 石剣
- a 東宗像遺跡
- b 弥生時代中期
- c 福市考古資料館



- 9 家形土器
- a 湯梨浜町藤津
- b 弥生時代後期
- c 鳥取県立博物館

Information

倉吉博物館

桜の名所である打吹公園の中にあり、倉吉市内出土の考古遺物を体系的に展示しています。



倉吉市小田出土銅鐸

主な弥生時代展示品

- ・大谷・後口谷墳丘墓出土品
- ・阿弥大寺墳丘墓出土品
- ・倉吉市小田出土銅鐸
- ・中峯遺跡出土鳥形スタンプ文土器

【開館時間】9:00～17:00(入館は16:30分まで)  
 【休館日】月曜日(月曜が祝日の場合は翌日) 祝日の翌日・年末年始  
 【入館料】大人:210円、高校・大学生100円  
 中学生以下・70歳以上・障害のある方:無料  
 【交通】JR山陰線倉吉駅からバスで20分  
 赤壁・白壁土蔵バス停留所から徒歩8分  
 【お問い合わせ】倉吉市仲ノ町3445-8 / TEL.0858-22-4409

Information

琴浦町歴史民俗資料館

特別史跡斎尾庵寺跡出土品のほか、琴浦町でみつっている弥生時代青銅器・土器などを展示しています。



主な弥生時代展示品

- ・琴浦町田越出土銅剣
- ・琴浦町久蔵峯出土銅矛



琴浦町久蔵峯出土銅矛

【開館時間】9:00～17:00  
 【入館料】無料  
 【休館日】土日祝祭日  
 【交通】JR山陰線浦安駅から徒歩1分 マナビタウン内  
 【お問い合わせ】TEL.0858-52-1161(琴浦町教育委員会社会学習課)

うめだかやうねいせき

梅田萱峯遺跡 [県内最大級の墳丘墓]

琴浦町

甲川右岸の低丘陵上に立地する弥生時代中期後半から後期前半にかけての集落跡です。集落は浅い谷を挟んで二つの尾根に広がり、西側の尾根では窪穴住居や貯蔵穴に木棺墓・土壇墓などが見つかりました。東側の尾根には独立棟持柱をもつ掘立柱建物や墳丘墓が築かれており、集落の特別な場所だったようです。

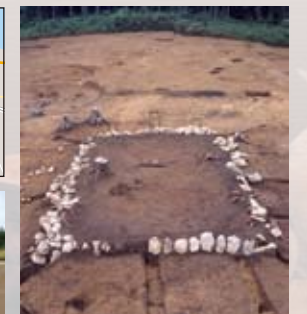
墳丘墓は県内最古級で、方形の墳丘斜面に石が貼られていました。墳丘には9本の柱穴が見つかり、柱を立ち上げる祭祀が行われたと考えられています。現在墳丘墓は、琴浦町の赤碕勤労体育センターの敷地内に移築復元されています。

【所在地】東伯郡琴浦町梅田 / 移築復元(東伯郡琴浦町太一垣・赤碕勤労者体育センター)

【問合せ】琴浦町教育委員会 / TEL.0858-52-1161



梅田萱峯墳丘墓の移築復元



鳥取県内最古級の墳丘墓



# 因幡地域の遺跡

鳥取県東部を占める因幡地域の弥生時代遺跡は、千代川下流域に広がる鳥取平野と各河川流域の小平野、湖山池の周辺、鳥取市西側の青谷平野などに多く知られています。弥生時代の集落跡はおもに丘陵の裾や平野の自然堤防上に見られますが、周辺の丘陵上にも後期を中心とする遺跡が点在しています。また、地域的なまとまりごとに、集落遺跡と離れた山間部から銅鐸が出土しています。

湖山池の南にある丘陵周辺は、布勢遺跡・西桂見遺跡などの弥生遺跡が集中する地域です。小さな尾根ごとに後期の竪穴住居跡が数棟ずつ確認され、布勢鶴指奥墳丘墓や西桂見墳丘墓などの墳丘墓も造営されています。一方、千代川下流域の左岸平野部にある岩吉遺跡は、この地域の拠点集落と考えられ、中期から後期の掘立柱建物跡や水田跡が確認されています。また、右岸にある秋里遺跡は弥生時代後期から古墳時代まで続く祭祀遺跡です。

鳥取平野南側の門上谷遺跡では後期の墳丘墓が、東側の西大路土居遺跡からは銅剣が出土しており、さらに袋川を遡った糸谷1号墳丘墓は、因幡唯一の四隅突出型墳丘墓と言われています。

千代川中流域にも弥生時代の遺跡がみられます。八頭町の万代寺遺跡では中期の竪穴住居跡と木棺墓群が確認されています。さらに千代川を遡った智頭町では、中田竹美遺跡などで後期の竪穴住居跡が調査されており、智頭枕田遺跡では、吉備(岡山県)地方と同じ形の土器が出土しています。

因幡東部の蒲生川流域では、県内で最も古い段階の新井三嶋谷1号墳丘墓(県史跡)が発掘調査されています。保存・整備されて見学することができる数少ない弥生遺跡です。因幡西部の鳥取市気高町などでは、河岸段丘上に後期を中心とした竪穴住居跡が点々と発見されており、青谷平野には地下の弥生博物館と呼ばれる青谷上寺地遺跡が知られています。



## 国指定 青谷上寺地遺跡 [地下の弥生博物館]

鳥取市

因幡地域西部の青谷平野にあり、国史跡に指定されている弥生時代遺跡。多彩な出土品とそのまれにみる保存状態の良さから「地下の弥生博物館」と呼ばれています。当時は内湾の水辺に面していたと考えられ、集落中心部では矢板などで周囲を護岸する大規模な土木工事がなされ、その西・南側には水田が広がっていました。農業・漁労を営みながら、他地域と海を介した交流・交易を行っていた弥生人の勇姿を彷彿とさせる遺跡です。

出土品は数万点に及び、「倭国乱」の実態を示すとされる殺傷痕人骨や奇跡的に残っていた弥生人の脳、弥生の匠のわざを伝える木製容器など、倭人の暮らしぶりを明らかにする資料は枚挙に暇がないほどです。「魏志倭人伝」に描かれた倭人の暮らしや弥生の国々の実態を示す数々の発見は全国から注目されています。遺跡に近い青谷上寺地遺跡展示館や鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室では、素晴らしい出土品の数々を見ることができます。※現地は埋め戻されています。

【所在地】鳥取市青谷町字上寺地ほか



漁労具とサメの描かれた土器

精巧な木製容器

額を割られた殺傷痕人骨



弥生時代の青谷上寺地遺跡(復元CG)



矢板が打ち込まれた土木工事の跡



動物の描かれた琴板



青谷上寺地遺跡の出土品紹介

青谷上寺地遺跡から出土した豊富な遺物は、当時の人々の活動をリアルに物語ってくれます。

青谷上寺地遺跡展示館、鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室で見学できます。



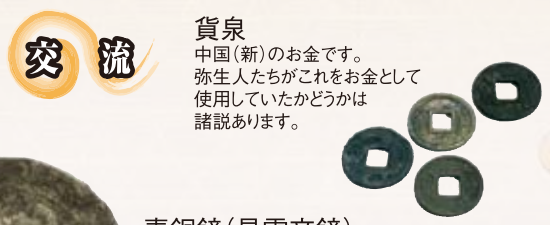
**彩色木櫛**  
赤く塗られた木製の櫛です。  
表面には文様が描かれています。



**銅鋤**  
銅製のやじりです。  
このほかに、鉄製・骨製・木製のものも出土しています。



**鑄造鉄器**  
大陸製の鉄器です。  
当時最先端の技術で  
つくられたことがわかっています。



**貨泉**  
中国(新)のお金です。  
弥生人たちがこれをお金として  
使用していたかどうかは  
諸説あります。



**青銅鏡(星雲文鏡)**  
中国の漢の国で紀元前1世紀前半に  
製作された鏡です。  
4分の1にされた「破鏡」として出土しました。



**玉作り**  
素材から作りかけのもの、  
完成品とすべての段階の  
ものが出土しており、  
玉製品の製作過程が  
良くわかります。



**木製容器**  
写真のような綺麗な  
木製品のほか、  
つくりかけのもの  
もたくさん出土して  
います。



**漁労具と農具**  
鎌・鍬・耜などの農具や、  
櫂・釣針・銚などの  
漁労具がたくさん出土しています。



**卜骨**  
占いに使われた動物の骨で、  
出土数は日本一を誇り、  
さかんに占いをおこなっていた  
様子がわかります。



Information

青谷上寺地遺跡展示館

青谷上寺地遺跡で出土した多数の遺物が  
展示されているほか、勾玉作りなど、各種体験  
イベントを開催しています。

【開館時間】9:00~17:00(入館は16:30分まで)  
【休館日】  
月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)  
祝日の翌日・年末年始  
【入館料】無料  
【交通】  
車:青谷インターから3分 / 徒歩:JR青谷駅から徒歩3分  
【お問合せ】  
鳥取市青谷町青谷4064 / TEL.0857-85-0841



船を描いた板

Information

鳥取県埋蔵文化財センター 青谷調査室

青谷上寺地遺跡調査係がある鳥取県埋蔵文化財セン  
ター青谷調査室では、「収蔵展示室」で青谷上寺地遺跡の  
出土品の収蔵状況を公開しています。

【展示解説】  
職員が展示解説を行います。団体でお越しの際は事前にお申し  
込みください。  
【公開日時】月~金曜日 9:00~17:00  
【入館料】無料  
【お問合せ】  
鳥取市青谷町青谷667番地(青谷総合支所2階)  
TEL.0857-85-5011



収蔵展示室→

県史跡

にいみしまだにふんきゅうぼ  
新井三嶋谷墳丘墓 [弥生王墓の威容]

岩美町

因幡地域の東端、蒲生  
川を見下ろす小高い丘  
陵上にある県内で最も  
古い後期初め頃の弥生  
墳丘墓。1号墓はこの時  
期としては最も規模の大  
きい南北24mの四角い  
形の墳丘の斜面に、びっ  
しり石が貼り付けられて  
おり、3基の埋葬施設が  
みつかっています。2号墓は貼石のない方形墳丘墓でした。  
墳丘墓は岩美南小学校に隣接して整備されており、因幡の弥生  
王墓の威容を見ることが出来ます。



整備後の様子



斜面に石を貼り付けた1号墳丘墓(発掘時)

【所在地】岩美郡岩美町新井  
【お問合せ】岩美町教育委員会 / TEL.0857-73-1302



市 史跡 **糸谷1号墳丘墓**

鳥取市

いとたにいちごうぶんきゅうぼ

袋川中流域で丘陵上に造営された一辺17mの終末期の貼石墳丘墓。因幡地域で数少ない四隅突出型墳丘墓と考えられています。

【所在地】鳥取市国府町糸谷  
【お問合せ】鳥取市教育委員会／TEL.0857-20-3367



四隅突出型墳丘墓

にしかつらみぶんきゅうぼいせき **西桂見墳丘墓** 「謎の大墳丘墓」

鳥取市

発見された時には既に大半が破壊されていましたが、弥生時代終末期に造営された一辺64mある因幡地方最大の墳丘墓と言われ、最大の四隅突出型墳丘墓とする意見もあります。

竹管文などの文様を施した特殊な大型土器が採取されており、王の埋葬にあたって特別に作られ、墓に供えられたものと思われま。

【所在地】鳥取市桂見  
【お問合せ】鳥取市教育委員会／TEL.0857-20-3367



墳丘墓に供えられた土器(県立博物館所蔵)

いわよしいせき **岩吉遺跡**

鳥取市

〔千代川下流域の拠点集落〕

千代川河口近くの左岸平野部にある大規模な低湿地遺跡。まだ十分な調査はなされていないが、弥生時代を通じて集落が営まれ、この地域にあった「クニ」の拠点集落だと考えられています。

中期から後期の掘立柱建物跡や後期の水田跡が確認されています。他地域との交流を示す東海地方をはじめとする地域の土器が出土しています。



【所在地】鳥取市岩吉・安長ほか  
【お問合せ】鳥取市教育委員会／TEL.0857-20-3367

にしおおろどしいせき **西大路土居遺跡**

鳥取市

〔因幡で唯一銅剣出土〕

鳥取平野南側の大路山の山裾に営まれた前期～後期の集落跡。竪穴住居や掘立柱建物、井戸跡などが確認され、近畿北部地域の土器がまとまって出土した住居跡もありました。

先端を欠いた銅剣が因幡地方で唯一出土しています。

【所在地】鳥取市西大路  
【お問合せ】鳥取市教育委員会／TEL.0857-20-3367



銅剣が出土した様子

まつばらいちごうぶんきゅうぼ **松原1号墳丘墓** 「湖山池を見下ろす首長墓」

鳥取市

湖山池の南岸に面した尾根にあった弥生時代後期の墳丘墓です。東西約13.5m、南北約12mの長方形のお墓で墳丘の内外に30基前後の埋葬施設が確認されています。墳丘頂部の埋葬施設4基には、約1200点にも及ぶ大量のガラス製装飾品(勾玉・管玉・小玉)をはじめ、鉄製の刀子(とうす)や鏃(やじり)が供えられていました。

権威の象徴として当時の貴重品であったガラス製品を大量にもつことから、松原1号墳丘墓に葬られたのは湖山池の周辺を治めた有力な首長と考えられます。



松原1号墳丘墓(湖山池を望む)



真上から見た様子



出土したガラス製装飾品

【所在地】鳥取市松原 【お問合せ】鳥取市教育委員会／TEL.0857-20-3367

ふせつるさしおくぶんきゅうぼ **布勢鶴指奥墳丘墓** 「朱に彩られた祈り」

鳥取市

県営総合運動場の周辺では、中期末～後期前半の遺跡があり、竪穴住居や掘立柱建物跡墳丘墓などが発見されています。

なかでも布勢鶴指奥墳丘墓は、弥生時代後期中頃に造営された南北約18mの方形の貼石墳丘墓で、埋葬に際しては木棺内に厚く水銀朱が敷き詰められていました。

【所在地】鳥取市布勢  
【お問合せ】鳥取市教育委員会／TEL.0857-20-3367



布勢鶴指奥墳丘墓埋蔵施設



もとだかゆみのいせき  
**本高弓ノ木遺跡** [弥生前期から続く土地利用]

鳥取市

千代川の西岸の平野にあり、弥生時代前期から後期にかけて営まれていた集落の跡が見つっています。

弥生時代開始期の河川から貯木されていた直径20cm前後の丸太材が大量に出土しました。丸太材には枝打ちや樹皮を剥がした痕が残っていました。弥生時代の木材利用のあり方を示す最古例として貴重な発見です。

また、遺跡の一角から弥生時代後期に築かれた約23×17mの貼石を伴う盛土が見つっています。

埋葬施設は確認できませんでしたが、盛土の内隅が突出しており、墳丘墓の可能性がうかがわれる遺構です。

【所在地】鳥取市本高

【お問合せ】鳥取市教育委員会 / TEL.0857-20-3367



盛土遺構



河川における貯木の様子



木製鋏出土状況

まんたいじいせき  
**万代寺遺跡**

八頭町

[弥生中期のムラと墓]

八東川と私都川に挟まれた微高地に営まれた中期中頃の集落遺跡。昭和57年に行なわれた発掘調査で、



木棺墓群

大型の竪穴住居や36基もの木棺墓などが確認されています。このうち木棺墓群は溝で区画され、方向を揃えて整然と配置されているのがわかります。

【所在地】八頭郡八頭町万代寺

【お問合せ】八頭町教育委員会 / TEL.0858-84-1232

ちづまくらだいせき  
**智頭枕田遺跡**

智頭町

[山間地の弥生集落]

千代川上流域の智頭枕田遺跡からは、溝や掘立柱建物跡とともに、前期～後期までの土器・石器が出土しています。県境にある遺跡らしく、岡山県地方と共通する土器も見つっています。

【所在地】八頭郡智頭町智頭

【お問合せ】智頭町教育委員会 / TEL.0858-75-3113



土器が出土した様子



大型の器台

Information

鳥取市歴史博物館（やまびこ館）

鳥取市内の歴史情報を学ぶことができる参加体験型博物館で、常設展示は「鳥取の風土」「城下町鳥取」など。

【開館時間】9:00～17:00

【休館日】月曜日、祝日の翌日、年末年始

【お問合せ】鳥取市上町 / TEL.0857-23-2140



たかずみ  
高住銅鐸

昭和十年代、兎を捕るためのワナを仕掛けようと斜面の土を掘った際にみつかったものです。流水文と呼ばれる文様が美しい優品です。



Information

鳥取県立博物館

鳥取県の歴史・民俗、自然、美術を学ぶことができる総合博物館で、旧石器時代から歴史時代までの代表的な出土品を展示しています。国史跡鳥取城跡の中にあります。

【開館時間】9:00～17:00※4月から10月までの間は19:00まで開館

【休館日】月曜日、国民の祝日の翌日、年末年始

【お問い合わせ】鳥取市東町2丁目 / TEL.0857-26-8042

主な弥生時代展示品

・西桂見墳丘墓出土土器 ・八頭町下坂出土銅鐸など



おりさか  
下坂銅鐸

鳥根県加茂岩倉遺跡出土銅鐸のなかに同じ鑄型で作られた“兄弟銅鐸”があることが分かっています。発見されたのは下坂銅鐸が先ですから、こちらが“兄”でしょうか。



こえじ  
越路銅鐸

高住銅鐸と同じく流水文銅鐸です。こちらは香川県・徳島県で兄弟銅鐸が見つっています。

Information

鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県内の遺跡情報を知ることができるセンターで、多くの出土品を収蔵しています。展示室では県内で発掘された出土品などを見学できます。



【利用時間】9:00～17:00

【休館日】土・日、祝祭日、年末年始

【お問い合わせ】鳥取市国府町宮下  
TEL.0857-27-6711

